
守りたいもの

美崎 桃香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
守りたいもの

【Nコード】
N5329D

【作者名】
美崎 桃香

【あらすじ】
今まで彼女は何人もいたが、本気で好きになることは一度もなかった。しかし1人の女に出会い、彼はどんどん変わっていく。

第1話（前書き）

初めて小説というものを書いてみました。頭の中に思い浮かんだことを文章にするのは、すごく難しいことだと実感しました。未熟者ですが、最後まで頑張りますので、よろしくお願いします。

第1話

いつもと変わらない朝。

いつもと変わらない風景。

いつもと変わらない世界。

変わって欲しいとは思わなかったけど、心のどこかで、刺激を求めているのかもしれない。

「おい、中田！同じクラスだ！」

俺の方に手を振りながらやってくるのは、中学からの友達、竹内健吾だ。

俺と違い身長は高め。細い身体の割には筋肉もある。

同じ細めの身体でも、170もない身長で、筋肉もないただのガリガリの俺からすると、本当にうらやましい。

「同中からで組は、俺とお前だけみたいだな。」

「そうか。」

高校の入学式っていつても、制服やクラスメイトが変わるだけ。俺は、そんな冷めた人間だ。

周りを見ると、真新しい制服や新しい環境に胸を踊らせ、目を輝かせている奴等ばかり。

「いいねえ、青春ってやつは。」

なんとなく周りを観察していると、1人の女が目にとまった。

新入生の群のソワソワしているような空気の中、その女だけはどこか遠くを見つめ、周りの奴等とは違う空気を放っていた。

「愛ー！やったね！同じクラスだよ！」

近付いてきたのは、多分友達だろう。

「うん。」

その女は無表情のままうなずいた。

「おい、中田！そろそろ教室に行こうぜ。」

「ああ。」

竹内に声をかけられ、振り返って進もうとしたが、あの女が気になりもう一度目を向けてみた。

でもあの女の姿はどこにもなかった。

第2話

「健吾?!」

「ん・・・あすか?!」

茶色に染めた長い髪に、小麦色の肌。誰が見ても大抵は可愛いという感想がでるであろう容姿。

「なつかしいっ！小学校以来だね！」

その女は、笑顔でこっちに近付いてくると、俺と竹内の前に座った。

「ってか、健吾全然変わんないね。」

「お前もな。」

2人が笑いながら喋っているのをぼーっと見ていると、視線に気が付いたのか、俺の方に顔を向けた。

「友達？」

「ああ。こいつは中学からの友達で中田。」

「中田ねっ！あたしは健吾の幼馴染みたいなもの。あすかでいいよ。よろしくっ！」

「ああ、よろしく。」

俺は笑顔で挨拶を返した。

俺は小学校の頃から、女にもてる。自分で言うのもなんだが、決して悪くない容姿をもっているから。でもそれとは別に、誰かに教えられたわけでもないのに、女の扱い方を知っていたからだと思う。

女に対しては、常にやさしく笑顔で。
今では意識しなくても、自然に対応できるようになった。

「お前もこの高校だったとはなあ。」

「何よおー、いけない？」

「そんなこと言っていないだろ。」

「ならいいけどお。」

2人が楽しそうに話しているのを聞きながら、俺は教室の中をグルツと見回した。

「あすかの中学からこの高校に入ったのはお前1人？」

教室の後のドアから、教室の中を除き込むように見ている色白で小さい女が1人。

「んーん。もう1人いるんだけど、はぐれちゃって。どこ行っちゃったん・・・。」

その女と一瞬、目があったような気がした。

「愛！どこ行ってたのよ！席こつちー！」

【愛】と呼ばれたその女は、黒板に貼ってある座席表を確認すると、黙ったままこつちに近付いてきた。

「友達？」

「うん。中学から一緒の高崎 愛ちゃんねー！」

近くで見ると、結構可愛い顔をしている。まあ、俺的にはこの【あ

すか】の方が好みの顔だが。

「よろしくな、高崎。」

竹内が挨拶をしたのに、【高崎愛】は無表情のまま窓の外を眺めだした。

「ごめんね。まあこうい子だけど、仲良くしてやって。」

「あ、ああ。」

入学式でホールに移動するまで、【高崎愛】はずっと窓の外を眺めていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5329d/>

守りたいもの

2011年1月16日02時23分発行